

# 語学能力確認書

指導教員名（自署又は印）： \_\_\_\_\_

1. 氏名（申請者本人）： \_\_\_\_\_（国籍： \_\_\_\_\_）

2. 語学要件の確認：次の①～⑥のうち該当するもの1つに☑してください。

| 言語  | チェック欄 | 語学要件（次のいずれかを満たす者）   |
|-----|-------|---|
| 日本語 | スコア：  | ①正規課程への入学時点で日本語能力試験（JLPT）のレベルN2以上に合格している者。                            |
|     |       | ②日本の大学院修士課程・博士課程（前期）又は博士課程（後期）への入学資格を満たす教育課程を、日本語を主要言語として修了した者。       |
|     |       | ③①相当以上の日本語能力を有していると受入大学において判断できる者。                                    |
| 英語  | スコア：  | ④正規課程への入学時点で英語におけるヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のB2相当以上の資格・検定試験のスコアを有している者。 ※裏面参照 |
|     |       | ⑤日本の大学院修士課程・博士課程（前期）又は博士課程（後期）への入学資格を満たす教育課程を、英語を主要言語として修了した者。        |
|     |       | ⑥④相当以上の英語能力を有していると受入大学において判断できる者                                      |

### 3. 語学能力の確認書類について

- (1) 設問2で①④を選択した場合：語学スコアのコピー等の証明書を提出願います。
- (2) 設問2で②⑤を選択した場合：日本語又は英語で教育を行っている大学の修了証書のコピー等を提出願います。
- (3) 設問2で③⑥を選択した場合：裏面のとおり面談を実施し評価結果を提出願います。

#### 【評価結果】

| 実施日 | 面談言語  | 面談方法   | 面談担当者<br>(3名以上) | 評価項目 |   |   | 総合評価 |
|-----|---|--|-----------------|------|---|---|------|
|     |   |  |                 | ①    | ② | ③ |      |
| /   | <input type="checkbox"/> 日本語<br><input type="checkbox"/> 英語 | <input type="checkbox"/> 直接面談<br><input type="checkbox"/> TV 電話<br><input type="checkbox"/> その他<br>( ) | 1.<br>2.<br>3.  |      |   |   |      |

#### 【相当以上の能力を有していると判断した理由】

※諮問内容と学生の受け答えの状況を含め、具体的に記載してください。

[1] 面談実施方法

- ・ 3名以上の教員で実施する。
- ・ 評価項目は下記の3項目とし、口頭により試問を行う。
  - ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できるか。
  - ②お互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然であるか。
  - ③幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができるか。

※諮問内容の例

- ①及び②については、これまでの研究内容、今後の研究計画についての英語又は日本語でのプレゼンと質疑、大学院入試の面接評価指標に準じた質疑（卒業論文の研究内容又は業務実績等、志望理由（研究計画を含む）、表現力・勉学意欲等）により評価する。また、③については作成したプレゼン資料等により評価する。

[2] 評価方法

- ・ 各項目について適・不適で評価し、3項目の総合評価とする。
- ・ 総合評価は、3項目中全ての項目が適の者を日本語能力試験のN2又はCEFRのB2相当以上の資格・検定試験のスコアを有していると判断する。

.....  
【参考】ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）B2レベルについて

「外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR: Common European Framework of Reference for Languages）」は、言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準です。

「B2」レベルでは、次の能力を有しているとされています。

- ・ 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
- ・ 主な語学試験のスコアでいうと次のとおり。  
IELTS 5.5 以上、TOEFL iBT 72 点以上、TOEIC (Listening 400 点以上、Reading 385 点以上)

※TOEFL、TEAP、ケンブリッジ英検他との比較（文部科学省ホームページより）

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/117/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2016/05/24/1368985\\_15\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/117/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/05/24/1368985_15_1.pdf)

※TOEIC テストとの比較（（一財）国際ビジネスコミュニケーション協会ホームページより）

[https://www.iibc-global.org/toEIC/official\\_data/toEIC\\_cefr.html](https://www.iibc-global.org/toEIC/official_data/toEIC_cefr.html)